

# 出張報告書

令和 元 年 11 月 27 日

市議会議長 米田貴志 様

会派名 誠和クラブ

代表者氏名 鳥居宏次

下記のとおり報告します

## 記

- 1 目 的 第81回全国都市問題会議
- 2 出 張 先 霧島市
- 3 出張期間 令和元年11月6日～令和元年11月8日
- 4 出張者氏名 鳥居宏次、岡林憲二、殿本マリ子
- 5 てん末報告 別紙の通り

令和元年 11 月 7 日(木)・8(金)に霧島市国分体育館で開催された全国都市問題会議に岸和田市より市長・市議会議員合計 11 名で参加いたしました。

その内、私達誠和クラブより 3 名全員が参加させていただきました。

初日の 11 月 7 日(木)は志學館大学人間関係学部教授の原口教授により『鹿児島県の歴史から学ぶ防災の知恵』と題した基調講演で色々と学ばせていただきました。

大きなテーマとしては

- ①九州のシラス文化と自然災害
- ②門割制度という防災農法
- ③人災から歴史資料を守る

でした。

①の内容から、南九州の方々が火山爆発や地震津波のある厳しい環境下でシラス台地から温度の低下と共にガス抜け「ガマ」ができ、この「ガマ」が宗教や生活に密着し「ガマ文化」が生まれました。これが災害常襲地帯の南九州に生まれた独自のシラス文化と言えると言っていました。

しかし、2005 年の一酸化炭素中毒事故で「ガマ」の存在や「ガマ文化」が忘れられ、「危険」だけが残ってしまい、埋められてしまったそうです。

②の門割制度という防災農法は、江戸時代の薩摩藩では全領土に施行されていた制度で、耕地を割り変えるという一見面倒な制度ではあるが、防災観点から見るととても理に適うものであったそうです。「被害の均分」と「危機の分散」により災害によって困窮した農民を救い、村の崩壊を防ぐための救済策だったそうです。

③は人災から歴史資料を守ることの大切さを説明されました。

次に霧島市の防災の取組み(火山防災)について、霧島市長より報告していただきました。霧島市は山、川、海、田園、温泉など多彩で豊かな自然に恵まれ、天孫降臨神話などの歴史文化や安心安全で豊富な「食」など多彩な観光資源を有する都市である。国際空港、高速道路、鉄道などが整備され、「世界に開く、人と自然、歴史、文化がふれあう都市」の実現を目指して街づくりを進めていると報告がありました。その報告の中で、霧島市は平成 23 年に新燃岳が噴火し、活火山と共生する火山防災の取組みを行っていると言っていました。

この火山防災については、いつ噴火するか予知できない火山とどう接していくか。

- ①住民、登山者の安全対策。
- ②農業被害対策
- ③観光業界等の被害対策
- ④自治体間、関係機関との連携・協力

に分けて説明していただきました。

火山活動が活発化すれば、住民生活や経済活動に大きな影響を受ける反面、温泉や景観といった恩恵も受けており霧島山は重要な地域資源であると報告を受けました。

地域社会を中心としたコミュニティの防災への取組みの推進に努め、いつでも起こり

うる災害に機能を発揮できるコミュニティ構築と災害に強い街づくりを目指していくという市長の力強い言葉に霧島市への素晴らしい愛郷心を感じました。

次に、尚絅(しょうけい)学院大教授の田中重好先生より「災害コミュニティ」というテーマにおいて自治体でどうコミュニティ対策をしていったらいいのか、コミュニティの側からと自治体の側からとして報告がありました。生活コミュニティを育てることで防災コミュニティが育つとおっしゃっていました。

そして、地域からの防災を進めることは大事で、地域の特色あることを考えることも重要であると話されていました。地域防災力が向上していくかの解答に、従来のように政府に頼るのではなくそれぞれの自治体が答えを出してゆかなければならないことで、全国の自治体が「実験的に試み、成功、あるいは失敗した」地域防災力への取組みを全国の自治体が経験していくことで「地域からの答え」が生まれ、「地域からの防災力強化」が実現する近道であると話されていました。

次に広島市の松井一實市長による報告は、昨年7月の豪雨災害で生まれた経験を生かし、どう災害と向き合っていくべきか貴重なお話をしていただき、とても勉強になりました。自分の市町村は大丈夫だと思わず、日頃からの備えをしておく、そのためには地域コミュニティの役割が大きく、地域防災リーダーを養成し、子供達の防災キャンプの実施など色々と災害に向けて日頃より取り組んでおかなければならないと話されました。

最近の経験からのお話であったので、突然に襲ってくる災害における危険性がよくわかりました。

最後に、火山災害と防災について火山研究推進センターの中田節也センター長より、

- ①日本の火山活動
- ②火山監視・観測と予測
- ③日本における火山防災の特徴
- ④防災対策としてのジオパークの活用

について説明していただきました。

火山については私達の身近にないため、先生のお話の中から新しい知識を得ることが出来ました。又、ジオパークとはユネスコの自然保護プログラムの一つで、科学的な価値ある地質・地形遺産を複数含む地域が自然と人々の繋がりを理解して、地域全体が持続的に発展しようとする仕組みであり、全国や世界のジオパーク地域がお互いに連携していることも知りました。更に、この様なジオパークの仕組みを活用することにより、恩恵を受けている火山を認識しながら火山防災への取組みが可能になるだろうと説明されました。

2日目のパネルディスカッションにおいては、都市計画法ができて100年になり、人々の事情が色々と変化しており、特にマンション生活が現れてからはコミュニティが希薄化していると言われています。コミュニティの間で連携・統合・再構築をどのようにしているのか。

例えば、前述のようにマンション住まいでは人間関係が希薄になり、普段からどのように人

間関係を築くか難しくなっています。災害には、普段から初期消火等の体験をし、そうすることによって防災に必要なものを収めてある防災倉庫等の確認を事前に知っておかないと災害時に役に立ちません。初期消火等の訓練を共にし、人間関係を構築して、いざという時に協力し合えることが大事です。災害発生時に階段を駆け上りマンションに居住する高齢者や住民に声掛けして回る学生が、かけがえのないステークホルダーにカウントされている地域も有ります。そして、地域防災リーダー養成講座を受講させている地域もあり、防災への取組みをより強固なものにしている地域も有ります。

このディスカッションの概要は、たとえ IT や様々なものが発達しても地域コミュニティーの人間力が最も大切で、日頃から、人と人との繋がりを持ち、いざという時にお互いが協力し合える仕組みを構築していかなければならないということです。

この会議終了後、最後に誠和クラブの 3 名は行政視察で日当山西郷どん村、霧島神社、霧島木質電機(株)を訪問し、霧島市の素晴らしい自然や文化を知り、人々がこの自然に感謝し、火山と共に生活していくことの意味を知りました。

その後、素晴らしい霧島市を後にして帰路につきました。新しい沢山の事を学べた二日間でした。